

銀漢亭日録



伊藤伊那男

3月14日(木)▼鳥谷操さん来てくれて祝賀会最終打ち合わせ。極句会あと十一人。

15日(金)▼発行所「葛句会」。あと九人店。日曜日の祝賀会、二次会の準備。

16日(土)▼来週の食材を買って店へ納入。十五時半、浅草雷門に三笠書房押鐘会長、森崎森平、小野寺清人さんと待ち合わせ。「三浦屋」の河豚へ。年一回の恒例(いつもは四谷)、あと「浅草サンボア」でハイボール一杯にとどめ帰宅。祝賀会の謝辞の準備など。

17日(日)▼正午より、学士会館にて俳人協会賞、新人賞受賞祝賀会。銀漢会員、客人、計二百二十人というパーティーとなる。あと銀漢亭を開放し、二次会。ここにも、七、八十人はみえたか。前面、道路に溢れかえる。あと、二十人ほどで「大金星」で三次会。

18日(月)▼「演劇人句会」六人。藤沢市俳句協会の神谷さん。山田真砂年さんの取材でNHK出版「俳句」の長坂編集長、神谷さん。

19日(火)▼竹内洋平さんと「炎環」の仲間六名。私の受賞祝いに銘酒、持って来て下さる。私、堀切君の滑稽句を抽出して下さり、このあと勉強会をして下さる。あと俳人協会若手の句会の面々。池田瑠那、上野犀行、笠原小百合、倉持梨恵、白井飛露、寺澤澤子、中村ひろ子、平野三斗士、曲風彦、吉田哲二、吉田林檎さん。

20日(水)▼「関句会」(藤森社吉さん)八人。伊那北高校同期「三水会」六人。成城駅前の辛夷満開。

21日(木)▼五月号のエッセイ他。十五時、東京芸大奏楽堂での「りい」の主宰で、榎山哲彦東京芸術大学教授の退任記念レクチャー&コンサートへ。上野は強風の中、桜開花か。時間を読み違えて祝賀

会には出席できず、亀戸の「すし屋の弥助」へ。水内慶太、鈴木忍夫妻と食事会。

22日(金)▼「金星句会」あと六人。橋野幸彦さん二人。

23日(土)▼昼、日本橋スタバにて作句。十四時、「鯨の与志喜」にて「纏句会」。あと、アボカドとチーズ、蟹の和物、筍と若布、菜の花の煮物、鰯の桜焼、酒は神亀。あと握り(題の鹹も)。

24日(日)▼終日家。選句。夜、家族にステーキ、鮎塩焼、若布サラダなど作る。

25日(月)▼俳人協会の夏季俳句指導講座打ち合わせあとの、佐怒賀直美、前北おる氏、未来図の女性三人など。池田のりを、野澤雄さんなど。

26日(火)▼環順子さん、「パティオ」最新号を持って。「ひまわり句会」あと七人。水内慶太さん、祐森水香さん。皆川文弘さん。屋内松山さん。

27日(水)▼五月号の選句終了。このあと、選評と。彗星集選はこれから。「雛句会」九人。

28日(木)▼「銀漢句会」あと十三人。三代川次郎さん、久々に顔見せしてくれる。

29日(金)▼十三時、「俳壇」七月号用「私のメイン・テーマ」のインタビューを発行所で受ける。担当、山崎春蘭さん。二時間ほど。

30日(土)▼銀漢亭にて「Oh! 花見句会」。超結社で三十三人集まる。料理八品ほど作る。持ち寄りの料理、酒も沢山いただき、賑やか。五句出し句会あと、席題で三句、あと二句……。十九時、おひらき。幹事の朽木直さんを囲み「大金星」で二次会。十二人ほど。

31日(日)▼「あちこち礼状など。三月の店の月次表。五月号の原稿最終。十七時、溝ノ口の「すくらむ21」、孫の伶輔のダンス教室「アイビィアートスクエア」の公演。

4月1日(月)▼杉阪大和句集の葉。「鷹」七月号へ「平成俳句をふり

かえる」特集の平成十五年の私、千字ほど書く。新元号「令和」と。店「かさ、ぎ俳句勉強会」あと十人。「つの会」四人。今日は堀切君の句集の勉強会。

2日(火)▼店、能村研三、佐怒賀直美、井越芳子、福島茂、大西朋さんの俳人協会の面々。

3日(水)▼「きさらぎ句会」あと六人。「宙句会」あと十一人。鈴木忍さん他、超結社句会あと七人。青柳飛さん、ロサンゼルスより帰国の足で来店。私と堀切君へ祝いのワインいただき乾杯! 新潟日報より『新編 漂泊俳人井月全集』の書評依頼あり、千字ほど書き上げて送る。

4日(木)▼清人、昌、金井さんなど。「十六夜句会」あと十二人。光汪君ひよこり。受賞祝いとてヴークリコ二本空ける。

5日(金)▼十三時半、発行所にて「信濃毎日新聞」文化部記者上野さん、私の俳句についてのインタビュー。長野市から来て下さる。店、オリックス時代の部下四人。内二人は元夫婦で三十年振りの再会と。人生色々あったな……。早稲田大学の俳句会の学生二名訪ねて来てくれる。

6日(土)▼予定入れてない日にて、界隈のお花見散歩。快晴。さくら祭とて並木の下は古着市、苗木市、飲食の屋台など。成城学園前の豪邸竣工間近。垣間みると、パーティーの準備中。Hルーベの社長邸との噂。成城学園学生ホールで二時間ほど校正やエッセイ。学食でカツカレー1470円! 津田卓さんより電話あり、声に力あり、生還!

7日(日)▼今日も桜並木を散策して駅へ。中野サンプラザにて「春耕同人句会」。あと「炎谷」にて親睦会。杉阪さんと打ち合わせを兼ねてもう一軒。

9日(火)▼三井康有さん京都から。「火の会」、青柳飛さん、飛び入り参加で十二人。毎日新聞の今井竜、逸見義行さん。経理学校に通っ

ていた頃来ていた山野井純一さん、税理士になったと。

10日(水)▼「梶の葉句会」選句。多田美記さんカナダから帰国。店、超閑散。冷たい雨。二十時半、閉めて隣の蕎麦店。展枝、るびさんと。

11日(木)▼環順子、笑子さん。「極句会」あと十二人。

12日(金)▼店、「大倉句会」あと十九人。永山優仔さん東京へ転居。私に祝いの花を下さる。

13日(土)▼十時、運営委員会。十三時、「ひまわり館」にて「銀漢本部句会」五十三人。あと「上海庭」にて親睦会。

14日(日)▼終日家。自句自解、銀漢の俳句、鎌倉吟行案内などの原稿書く。阿波野青畝の第一句集『万画』を語る、の講演会の下調べ。

15日(月)▼仕込み中に慶應茶道会の先輩赤羽さん。店、「演劇人句会」七人。飛さん明日ロサンゼルスへ戻ると。敦子。

17日(水)▼「三水会」五人。あと閑散。二十時半、閉めて光汪さんと二軒ほど。

18日(木)▼成城の銀杏並木の芽吹きが美しい。店、「銀漢句会」あと十三人。

19日(金)▼発行所、「葛句会」あと八人店。三輪初子さんの毎日俳句大賞受賞のお祝いの会。「炎環」の方中心に、四十七、八人集合して溢れ返る。「然々と」千部刷ったが在庫僅少。印刷屋に表紙カバー130ほど残っているのことにその分、第二版として増刷へ。

20日(土)▼十四時、日本橋「鯨の与志喜」にて「纏句会」十三人。食事せずに出て浅草公会堂の「鼓和-core-japanese」祭りへ。孫の伶輔がダンスで出演。あと佐藤一家ともしゃ焼。

21日(日)▼十四時より「下北沢サ・スズナリ」にて会員の田岡美也子さん出演の「脚光を浴びない女」。その前に同人の大山かげもと氏の茶舗訪ねる。観劇あと、田岡、展枝、いづみさんと居酒屋二軒。

22日(月)▼発行所「一八句会」あと八名店。阪西敦子明日入院と。水内慶太氏久々。